

春しゅん

夜や

蘇そ

軼しやく

春宵一刻直千金

花はなに清香せいこう有り月つきに陰かげ有り

歌管楼台声細細

鞦韆院落夜沈沈

【作者】蘇軾(一〇三六〜一一〇一年)・北宋最盛期の詩人・文章家・政治家。北宋の文章家蘇洵の長子で、弟が蘇轍。洵・轍と合

せて三蘇といふ。号は東坡。父は諸方に遊学がちで、蘇軾は十歳のころ母から学問を受けた。二十歳のとき父に従つて弟とともに都へ出、翌年兄弟そろつて進士に及第。王安石の新法に反対し何度も辺地に流されている。蘇軾は儒・仏・道のいづれにも通曉し、詩文はいふまでもなく、書画もよくした。その詩は平易流暢・変化自在で、特に七言に長じている。

【語釈】*春宵…春夜に同じ。 *一刻…一刻の長さには諸説(十五分〜三十分)があるが、いづれにせよ短い時間を指す。直…値と同じ。 *千金…大変高価であること。 *清香…清らかな香り。 *陰…月が朧に霞んでいること。 *歌管…歌は歌声、管は管楽器。 *楼台…高い建物。 *細細…かすかに音がするさま。 *鞦韆…ブランコ。秋千とも書く。漢以後は特に宮女の遊戯。 *院落…屋敷内の中庭。 *沈沈…夜が静かに更けてゆくさま。

【通釈】春の夜は一時が千金もの値打がある。花は清らかな香りを放ち月は朧にかすみ、なんともいへぬ風情である。先ほどまで歌ったり楽器を奏したりして賑やかだった高殿も今はかすかに音が聞こえるばかり。人気のない中庭に、ひっそりとブランコが垂れて、夜は静かに更けていく。

【鑑賞】起句の奇抜さ。春の夜というものは、お金に換算すると千金になると云ふまことに言い得て妙である。承句・転句・結句とその価値の实体を描いてみせる。美しい花、良い香り、朧にかすむ月。後半は、歌や笛の音が細々と聞こえて、先ほどまで春の夜を楽しんでいた雰囲気があり、最後に娘たちが遊んでいたブランコが、月の光に照らされて、ポツンと下がっている情景が見える。